

令和7年度 立川市立立川第四中学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	創造的な知性を磨く、健やかな心と体をもつ、自他を慈しみ共に生きる態度を養う。
---------	--

生徒に育成を目指す資質・能力	教科や学年全体に共通する取組
<ul style="list-style-type: none"> ○確かな学力を基盤に主体的に学び向上しようとする態度 ○課題に対して粘り強く取り組み、やり抜く力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリック評価を活用した主体性の伸長 ・ICT機器を活用した効果的な対話型授業の構築 ・授業規律を確立し、学び合いの活動の活発化

教科	教科で育成を目指す資質・能力	資質・能力を育成するための具体的な取組（学習活動など）
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○熟語や、言葉の本来の意味を正しく理解した上で、考えを伝え合うことができる力を養う。 ○文字を正しく、読みやすく書く力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとの熟語について、同音異義語なども含めて意味調べをするなど、辞書を用いる学習を計画的に設ける。 ・書写を兼ねた漢字テストを定期的実施する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な知識や技能を習得したうえで、社会的事象に対し、地図・年表・統計資料等の諸資料を基にした多面的・多角的な見方や考察する力を養う。 ○社会に見られる課題の解決に向けた広い視野からの構想・論理的説明・合意形成や社会参画を視野に入れた議論を行う思考力や表現力、社会の中で汎用的に使用する概念に関わる知識や考えを育成する。 ○学習した知識を基に、学習内容のまとまりごとの問いについて、表現する能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料（地図・年表・統計資料等）を比較・考察する問いに対し、資料を関連付けて社会的背景を考察するなど資料の読み取り方を学習する機会を設ける。 ・生徒が相互に学び合う活動を通して、理解の深化と個に応じた学びを実現する。 ・単元を通した問いについて、社会的な見方・考え方を働かせ、レポートを作成する活動を実施する。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○課題に対して幅広い視野と知識を用いた様々な解決方法で取り組めることを目指す。 ○数学的な表現を身に付け、事象について論理的に説明できる力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを自らの言葉でまとめ、振り返る場面を設定する。 ・発展的な事象や問題に対して、小集団で考える時間と、自分の考えを周囲に伝える時間を合わせて設定する。 ・思考力・判断力の深まりを図るために、基本的な知識や技能の論理的理由を基にした活用を必要とする課題を設定する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○観察、実験の基本操作を習得し、実験で得られた結果から考察し、説明しようとする思考力、表現力を養う。 ○基本的な概念や原理を理解し、身の回りの現象を科学的な視点から探究しようとする力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用した視覚的な教材を使用する。 ・班員との対話を通して、現象に対する疑問をあげ、仮説を立てられるようにする。 ・演繹の実験、仮説の立案、帰納法の実験から科学的思考の伸長を促す授業を多く実施する。 ・一人1台の学習用端末を用いた個々の学習活動を通じて、生徒の主体性を伸ばす。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽的な見方・考え方を働かせて音楽を観賞し、自分なりに価値付けたり、それらを周囲と共有して深め合ったりすることができる力を養う。 ○演奏表現に必要な技能を身に付けながら、主体的に音楽表現を工夫する力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な分野の音楽にふれ、感じ取ったことと気付いたことを区別しながら音楽の特徴を捉える機会を多く設定する。 ・比較聴取を通して演奏表現の相違や関連性を考察するとともに、周囲と考えを共有し深化を図る。 ・学習用端末による録画等で自分の演奏を振り返り、主体的に技能面の課題解決や表現の工夫に取り組めるようにする。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ○身の回りや自然の中から、規則的なパターンや形のユニークさを見付けたり、それらを自らの作品に生かしたりすることができる力を養う。 ○自らの作品に愛着をもち、丁寧な作品作りを心がけ、互いの作品への理解を深めようとする態度を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なものへの観察力を高めるために、クロッキーやスケッチを習慣付けたり、素材を集めたりして、作品制作に臨めるようにする。 ・自分の作品に対する思いを相手に伝えるとともに、互いの作品を鑑賞する機会を増やす。

保健体育	<p>○運動課題の解決に向けて、自ら深く考察したり、他者との対話を通じて自己の思考を深め、男女分け隔てなく、互いに助言し合ったりする力を養う。</p> <p>○個人や社会生活における災害や疾病、事故等による健康へのリスクに対して、自らの行動や考え方を適切に評価し、よりよく備えることができる力を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の動画撮影機能の活用によって、自他の運動を客観的に振り返り、課題に自ら気付けるようにする。 ・話し合いの活動時間を設定し、互いに助言し合う中で、他者の意見も参考にすることで、自己の思考を深められるようにする。 ・学習カードを活用し、学習内容の振り返りから次の授業の取り組み方を考え、練習法の工夫につなげられるようにする。
技術・家庭	<p>○主体的に学び、互いに教え合う態度を育成する。</p> <p>○知識や技能の基礎・基本を理解し、目標に向かって、粘り強く取り組む中で、より効果的な方法を見付け出す力を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の生活と密接した内容を扱うことで、興味や関心をもち、主体的に学習に取り組めるようにする。 ・ICT機器の活用によって、幅広い知識や生活の課題に気付けるようにする。 ・ICT機器を使って、作業手順や道具の使い方・動作が理解できるようにする。 ・ICT機器を使って、作品の状態を比較、解説することで、具体的な達成基準を明示する。
外国語	<p>○文法の意味・形・用法を理解し、実際のコミュニケーションの場面において活用できる力を育てる。</p> <p>○単語や基本文の知識の定着を図り、表現の幅を広げられるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークやグループワークを多く取り入れ、相手とのコミュニケーションの中で文法の意味・形・用法を理解できるようにする。 ・単語や基本文、音読練習を帯活動として取り入れることや、小テストを定期的実施することで、知識の定着を図る。 ・週末の課題として、復習プリント1枚程度を課したり、まとめのノート作りを課したりすることで、家庭学習を充実させ、基礎・基本の定着を図る。